

30万点以上の所蔵作品、約2万6000点の展示作品を誇る世界最大級の美術館である。

展示棟はドゥノン、シュリー、リシュリー翼の3棟から成り、古代エジプト・ギリシア美術から中世ヨーロッパ(13~19世紀)絵画の名作が集まる。

メトロの駅からルーブルを目指して歩くと、まず目に飛び込んでくるのが巨大なガラスのピラミッドである。ミッテラン大統領による1981年からの「グラン・プロジェ」の一端で造られたもので美術館のメインエントランスとなっている。これだけ象徴的な形態を歴史的な建物に新たに加えることを提案した設計者、それが実現されたことには脱帽する思いである。

美術館内部は16世紀から3世紀以上を費やして建てられたというだけあり棟によって床の貼り方や天井装飾には各時代の趣向が凝らされているのが興味深い。

建物自体が一級の美術品のようなものであり、例えて言えば中世美術から現代アートまで楽しめるような面白さがあった。

